

## 提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

案 件 名：あきる野市都市計画マスタープラン

募 集 期 間：平成23年1月15日（土）～平成23年2月7日（月）

意見等提出件数：20件（提出者7名）

あきる野市都市計画マスタープラン(案)に対する意見募集にご意見ありがとうございました。  
以下のとおり、ご意見の要旨と市の考え方について、ご紹介させていただきます。

項 目	意見の概要	市の考え方
(P17) 第Ⅰ章 あきる野市の現況と課題 2. 都市整備の課題 2-1 人口・産業 (1) 自立都市を目指した就業の場の創出	「自立都市を目指した就業の場の創出」よりも緑豊かなホームタウンとして住みよい街を作ることを進めるべきでは。	この項目では、都市整備の課題のひとつとして「自立都市の実現を目指した就業の場の創出」の必要性を記述しています。
(P18) 第Ⅰ章 あきる野市の現況と課題 2. 都市整備の課題 2-3 都市施設 (1) 幹線道路網の整備推進	車の利用を減らし、CO2 を削減するほか、自転車対自動車・自転車対歩行者の事故を減らす、大気汚染の改善、健康の増進など安全と健康を確保するため、車道を減らしてでも自転車道の設置を検討すべきです。	今回の改定は守るべき緑を保全し、緑多き住みよい街づくりを目指すとともに、良好な住環境や交通の安全を図るために道路網の整備を推進しているものです。自転車道の設置については課題もあることから、ご意見として承ります。
(P22) 第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム 1・まちの将来像の設定 1-1 まちづくりの理念と将来像	「歩きたくなるまち、あきる野」の象徴として秋川沿いにも遊歩道を設置していただきたい。具体的には①市内の河川を中心に駅とを結ぶ「瀬音道」のような親水遊歩道、②引田橋～山田大橋間南岸道路の遊歩道設置、③市が管理している空地等に簡単な「休み処」の設置を望む。	河川区域等における遊歩道等の設置については、「第Ⅲ章 全体まちづくり方針、5. 河川整備の基本方針」において「親しみやすい水辺空間の整備」、「秋川・平井川・多摩川などでは、遊歩道の整備を進める」としていますので、東京都と連携しながら整備を図ります。
(P22)第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム 1・まちの将来像の設定 1-1 まちづくりの理念と将来像	街づくりの理念と将来像について、「周辺市町村との協力体制」をいれたらどうか。	「まちづくりの理念と将来像」は当市のみのもとなりますので「周辺市町村との協力体制」については定めていませんが、実際のまちづくりにおいては近隣市町村との連携は必須であり、これからもまちづくりを進める上でより一層の協力体制を築いていきます。

<p>(P23)</p> <p>第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム</p> <p>1・まちの将来像の設定</p> <p>1-2 まちづくりの目標</p> <p>(1) 自然の恵みが実感できる都市</p>	<p>「自然の恵みが実感できる都市」について、観光拠点としての箱物の建築やイベントの実施など一過性のものより、自然を活かした交流の場として目指すべきではないか。</p>	<p>当マスタープランにおいては観光拠点の定義を、「基盤整備等におけるハード面、イベントや交流のソフト面、本来地域の持つ緑豊かな環境」ととらえています。ご意見のありました「自然を活かした交流の場」については、この定義の中に含まれているものとご理解ください。</p>
<p>(P24)</p> <p>第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム</p> <p>1・まちの将来像の設定</p> <p>1-2 まちづくりの目標</p> <p>(4) 市民の活力が実感できる都市</p>	<p>「市民が主体的に参加するまちづくり」を推進していくのであれば、もっと広く情報提供を行い、少しでも多くの市民の参加を促すべきである。また、今回のパブリックコメントも期間が短いのではないか。</p>	<p>今回の改定は、すでに意見募集を実施し策定した各種計画に基づく部分改定及び事業の進捗状況の時点修正が主な改定項目ですので、案を作成後、市民の皆様のご意見を伺うこととしました。また、意見募集の期間は、「あきる野市におけるパブリックコメントに関する指針」に基づき実施しました。</p>
<p>(P26)</p> <p>第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム</p> <p>3. 将来都市構成</p> <p>3-1 骨格となる軸の構成</p>	<p>秋川駅周辺の後に「東秋留駅周辺」も入れたらどうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、「(1) 都市軸」において秋川駅周辺を記載し、東秋留駅周辺は記載しておりません。両駅周辺とも「JR五日市線周辺」の記載に含まれますが、「秋川駅周辺」については、市の中心市街地という位置付けを有していることから記述しているものとご理解ください。</p>
<p>(P27)</p> <p>第Ⅱ章 まちの将来像とフレーム</p> <p>3. 将来都市構成</p> <p>3-2 拠点の整備</p> <p>(2) 生活拠点</p>	<p>東秋留駅周辺に「駅ビル・駅前広場等の再開発」も入れたらどうか。</p>	<p>東秋留駅の整備については、「第Ⅳ章 地域別まちづくり方針(3) 東秋留地域のまちづくり方針」、「安全で利便性の高い交通環境作り」「交通環境の強化」において、「駅舎の改良にあわせ、接続道路の拡幅と駅前広場や駐輪場の整備などにより、駅周辺の交通環境の強化を進めます。」としていますので、東秋留駅周辺の整備についてご理解願います。駅ビルについては、ご意見として承ります。</p>
<p>(P34)</p> <p>第Ⅲ章 全体のまちづくり方針</p> <p>1. 土地利用の基本方針</p> <p>1-2 土地利用の方針</p> <p>(2) 産業系市街地</p> <p>(3) 複合型市街地</p>	<p>秋川高校跡地周辺の土地利用は、市民アンケートの結果や高齢化社会の到来を踏まえて、福祉・教育ゾーンとしての位置付けをするべきである。</p>	<p>秋川高校周辺地区の土地利用については、平成21年10月に意見募集を実施し、同年11月に定めた、「旧秋川高校周辺地区土地利用の方針」に良好な産業系市街地の形成を図ると定めています。今回の都市計画マスタープランの改定は、この方針に基づき位置付けたものであり、産業の誘致を目指します。</p>

<p>(P39) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 2. 交通体系整備の基本方針 2-3 公共交通機関整備の方針 (1) 鉄道</p>	<p>五日市線の複線化は絶対に必要であり、これにより人口を増加させることです。</p>	<p>公共交通機関であるJR五日市線については、利用者の利便性の一層の向上と輸送力の強化が求められているため、「JR五日市線の改善及び複線化の促進」として、「駅施設や運行体制の改善とともに、複線化を促進します。」としています。</p>
<p>(P39) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 2. 交通体系整備の基本方針 2-3 公共交通機関整備の方針 (1) 鉄道</p>	<p>公共交通の強化について、青梅駅（御岳山）～五日市駅（大岳山）～高尾駅（高尾山）を結ぶ鉄道の敷設。</p>	<p>青梅駅（御岳山）～五日市駅（大岳山）～高尾駅（高尾山）を結ぶ鉄道の敷設についてはご意見として承ります。</p>
<p>(P39) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 2. 交通体系整備の基本方針 2-3 公共交通機関整備の方針 (1) 鉄道 (2) 地域公共交通</p>	<p>JR五日市線の増強、バス等の交通機関の充実を求む。</p>	<p>JR五日市線については、「駅施設や運行体制の改善とともに複線化を促進します。」とし、また、地域公共交通については、「市内循環バスは、運行を継続するとともに、地域住民との連携による新たな運行手法を検討します。」としています。</p>
<p>(P47) 第Ⅲ章 全体まちづくり方針 5. 河川整備の基本方針 5-2 河川整備の方針 (2) 親しみやすい水辺空間の整備</p>	<p>親しみやすい水辺空間の整備について、「秋川渓谷～ハイキング歩道設置」を入れてはどうか。</p>	<p>河川区域等における遊歩道等の設置については「親しみやすい水辺空間の整備」、「秋川・平井川・多摩川などでは、遊歩道の整備を進める」としています。 秋川渓谷ハイキング歩道についてはご意見としてたまわります。</p>
<p>(P53) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 8. 福祉のまちづくりの基本方針</p>	<p>高齢化社会に向けた医療・介護等健康施策の充実による、安心して暮らせる地域づくり。</p>	<p>「高齢化社会に向けた医療・介護等健康施策の充実」について、市は平成21年3月に策定した「第4期あきる野市高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画」に基づき施策を推進しています。</p>
<p>(P53) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 8. 福祉のまちづくりの基本方針</p>	<p>保育園、幼稚園、子どもの広場、学童保育など放課後対策の充実、そして生活福祉の充実による子育てしやすい環境の整備。</p>	<p>「子どもたちへの施策の充実」については、平成22年3月に策定した「あきる野市次世代育成支援行動計画」に基づき施策を推進しています。</p>
<p>(P53) 第Ⅲ章 全体のまちづくり方針 8. 福祉のまちづくりの基本方針 8-2 福祉のまちづくりの方針</p>	<p>バリアフリーの街づくりについて、市内各駅にホームからの転落防止柵を設置するよう要請する。</p>	<p>JR五日市線については、利用者の利便性の一層の向上と輸送力の強化が求められているため、「駅施設や運行体制の改善とともに複線化を促進します。」としています。転落防止柵は駅施設の改善課題の一つとして承ります。</p>